

男女別の育て方・教え方で 子どもは伸びる



2014年6月30日

第3回 男女別学教育シンポジウム

教育評論家 中井俊已

皆様、ご参加いただきありがとうございます。

中井俊已と申します。私は、長崎にある男女別学校で23年間教えていました。
いまは、京都に住んで、執筆活動などを行っています。

今日は、
「男女別の育て方・教え方で子どもは伸びる」というテーマで
お話しさせていただきます。

実は、お話の内容を欲張り過ぎてしまいました。
36枚のスライドを1スライド約1分という早いスピードでお話することになり、
説明としては、言葉足らずになるところが、多々出てきます。

申し訳ありませんが、どうかご容赦ください。

本講演の内容

- I 子どもの自己肯定感を高める
- II 男女別学の良さを見つける
- III 男女の特性に応じた教育をする



まず、本講演のおおまかな内容ですが、

- I 子どもの自己肯定感を高める
- II 男女別学の良さを見つける
- III 男女の特性に応じた教育をする

という順でお話していきます。

I 子どもの自己肯定感を高める

子育て・教育の目的

子どもが社会で自立でき、
幸せになること



私たち、教師や親、教育に携えわる者として共通の願いは何でしょうか。

それは、言葉や表現は多少違っても、「子どもに幸せになってほしい」という思い・願いではないでしょうか。

ですから、
子育てや教育の目的を
子どもが社会で自立でき、幸せになることだと
私は考えています。

子どもたちは幸せか？

日本の子どもの
自己肯定感は極めて低い

大切にされていない
自分には価値がない
生まれてこなければよかった

しかし、子どもたちは幸せか？と考えたときに
日本の子どもの自己肯定感は極めて低いという現実には思い至ります。

日本の子どもたちは、どの統計を見ても、自己肯定感が低いのです。
自分は、「大切に思われていない・認められていない」と感じる子が多い。
「自分は価値がある人間だ」と答える子が諸外国では50%前後であるのに、
日本は10%にも満たない。
ある市の教育研究所が市内の小5と中2全員にアンケートをとったところ、
「生まれてこなければよかった」と答えた子が市の3分の1もいた報道されたこともあります。

どうしてだろう？日本の優秀な子どもたちが、そう思うてしまうのは、なぜだろう。

私が教員だったときに、そういうことをずっと考えている時期がありました。
すると、小学1年生の子からこう言われたんです。
「先生、この頃、遊ばないね。いっしょに遊ぼう」
つまり、この子は私がこの頃元気がないのを見て、
「先生、元気を出してよ。いっしょに遊んであげるから」と言ってくれたわけです。
いっしょに外に出て遊んでもらいました。おかげで元気になりました。

私は、子どもの問題の原因は、むしろ大人にあるのではないかと思いました。
そして、「どうして・・・」という原因を究明して深刻なるより、
「どうしたらいいのか」と前向きに考えることが大切ではないかとも考えています。

子どもの幸せのために

大人が子どもと子どもの学校の良さを見つける

- ・どんな子にも良いところがある。
- ・子どもが通う学校を好きになる。



子どもよりもむしろ私も含めて子どもを教え導く大人が変わる必要があるだと思います。

そこで、私が皆様にお願ひするのは、
大人が子ども自身と子どもの学校の良さを見つけましょう。
ということです。

- ・どんな子にも良いところがあります。
その子どもの良いところを見つけてほめること。
すると、その子は自分に自信をもち、自分の価値を見出します。

また、

- ・子どもが通う学校を親や教師が好きになることも大切だと思います。
それは、子どもに必ず伝わります。
子どもが毎日通う学校が大好きになれば、学校生活はもっと楽しく充実します。
楽しく明るく充実した生活を送る自分を好きになることもできます。
そのようなことで、子どもたちの現在、未来の幸せにつながっていくと思うのです。

Ⅱ 男女別学の良さを見つける

- ・別学校には良いところがたくさんある。
- ・子どもも親も教師も喜びと誇りをもつ。
- ・さらに良い学校に発展させていく。



そこで、別学校の良さを見つけようという話になります。

- ・別学校は、いま数が減ってきていますが、良いところがたくさんあります。

私が本を書いたのは、別学校の良さを皆様にお伝えしたかったからです。

本を書く前は、ほとんど自分の学校のことしか知りませんでした。

そこで、首都圏の男女別学校を見学させていただこうと思いました。

最初に行ったのが、鷗友学園さん、そして品川女子学院さん、本郷さんにも行きました。そして、いろいろな素晴らしい学校に行き、アメリカにも行き・・・思ったのは、本当に男女別学校って良いものだということです。

このことを自分なりにどうしても伝えたいと思いました。

- ・また、男女別学教育の良さを再認識することで、別学校に通う子どもも親も教師も喜びと誇りをもってほしいと願っています。
- ・そして、さらに良い学校に発展させたいとも願っています。

男女別学の利点

1. 男女の特性(違い)に応じた教育ができる
2. 異性の目を気にせず個性を伸ばせる
3. 男女ともに主役になれる
4. 教師のサポート・模範(ロールモデル)
5. 学力が向上しやすい



そこで、第1回のシンポジウムでもお伝えして
本にも書いていることですが、
男女別学の利点について簡単に振り返ってみたいと思います。

1番目は、今日の話のメインですので、
後に残しておいて、2番目から振り返ってみます。

のびのびと個性が伸ばせる環境

「男子校を優先」した人(全体の73%)の理由 (複数回答)

	保護者	生徒
男子だけによる、のびのびと個性が伸ばせる環境	78.5%	63.2 %
男子だけによる、深い交流と人間関係	54.1	50.9
男子だけによる、学業に専念しやすい環境	45.2	28.9
男子の中での競争や活動による能力の開発	25.4	25.2
男子としての役割理解と人格形成	18.4	10.8
共学校に比べて規律だった生活環境	9.7	6.6
公立校に魅力を感じなかった	8.5	2.2

東京私立男子校フェア2013年資料(21校)

これは東京私立男子校フェアの10000人アンケートの結果です。

中学進学にあたって「男子校を優先した」人の理由として、

「男子だけによるのびのびと個性が伸ばせる環境」を上げている人が一番多いです。

私も、

「男子校、女子校の良さは何ですか？」

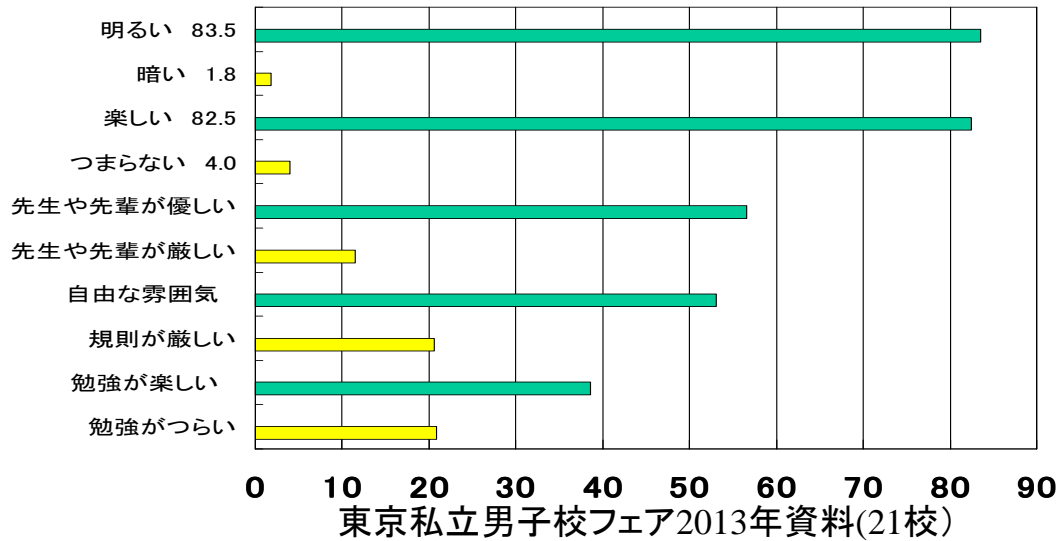
と生徒や卒業生や保護者に取材したところ、男子校、女子校も、

「男子がいないので、あるいは女子がいないので、

変に意識せずにのびのびできる」という感想が多かったです。

明るい、楽しい

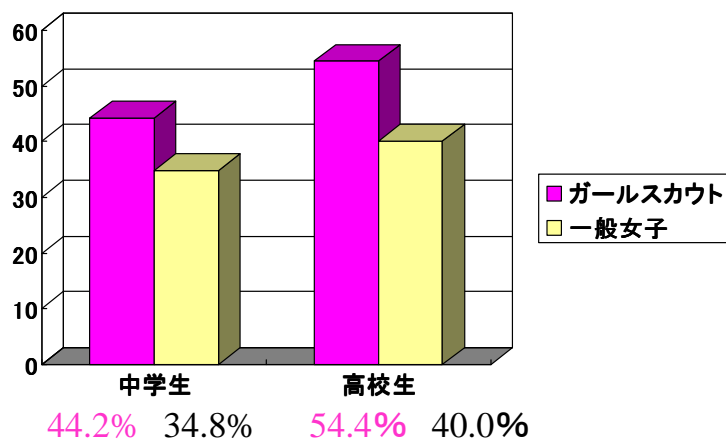
在校生として男子校にどのようなイメージをもっていますか？(生徒回答)(%)



そして、「明るい、楽しい」という生徒たちの思いは、男子校、女子校、両校に共通です。

自己肯定感が高くなる

自分にはよいところがある (生徒回答) (%)



ガールスカウト日本連盟「女の子はもっと伸びる」

これは、ガールスカウト日本連盟発行の

「女の子はもっと伸びる」という冊子からの資料ですが、

女の子だけで活動すると、活発になり、自分も他者の良さも受け入れやすくなり、自己肯定感が高くなることがわかります。

これは女子校でも同じこと言えるし、男子校でもそうです。

萎縮することなく、のびのびと楽しく明るく活動ができ、

互いの良さを認め合える場面が増えていきます。

男女ともに主役になれる

- 男子校・・・やりたくない事を女子任せにしない。
- 女子校・・・授業・行事でリーダーシップがとれる。



・幅広く能力を開発できる可能性がある。



男女別学校では、男女ともに主役になれるという良さがあります。

男子校・・・掃除などやりたくない事を女子任せにしない。

女子校・・・授業・行事でリーダーシップがとれる。



そのため、幅広く能力を開発できる可能性があります。

理数系が苦手だと言われている女子も、女子に合った教え方をするとますます理科が好きになり、理系分野に進む子が多くなるのも女子校の特長です。

教師(先輩)のサポート・模範

- 男子校には男性教師(先輩)が多く、女子校には女性教師(先輩)が多い。
- ↓
- 男女両方の教師は必要であり、有効。
 - ただ同性の教師はサポートしやすい。
 - 模範(ロールモデル)になりやすい。

別学校では、教師や先輩のサポート・模範が得やすいというメリットがあります。

というのは、男子校には男性教師(先輩)が多く、女子校には女性教師(先輩)が多いからです。



男女両方の教師は必要であり、有効。

ただ同性の教師はサポートしやすいし、模範(ロールモデル)になりやすいです。

特に、女子は不安を覚えると相談したいし、悩みを聞いてほしい子がたくさんいます。勉強の悩みなら男性でもいいのですが、それが身体のことや性に関するものであれば、女性のほうがサポートしやすいのです。

大学進学実績が高い

全体の1割に満たない別学校が進学トップ校を占める

● 出身校別東大合格者数

トップ10校のうち上位8校が別学校

東大合格15名以上の学校52校のうち29校(56%)が別学校

2014年4月18日「週刊朝日」

● 出身校別国公立医学部合格者数

トップ10校のうち6校が別学校

2014年4月27日「サンデー毎日」

別学校は、1割に満たないにもかかわらず、
ご存じのように大学進学実績は非常に高いです。

たとえば、このようなデータ(上記スライド)があります。

東大や医学部の合格というのは、1つのものさしにしか過ぎません。

ただ、東大や医学部に限らず、男女別学校に進学実績が高い学校が多いのは、現実です。

これらの学校は、最初から学力優秀な学校ではなかったし、学力の優秀な生徒が入学してきたわけではありません。

男女の特性に応じた良い学校づくりや良い授業を心がけるうちに、だんだん生徒の学力は向上し、進学実績もあがってきたのです。

Ⅲ 男女の特性に応じた教育をする

なでしこジャパンの佐々木則夫監督の指導法

「女子は横から目線」



なでしこジャパンの佐々木監督は、以前は男子の指導者だったのですが、女子を指導するようになって、同じような指示をしても男子と反応が全然違うということに、初め戸惑ったそうです。

同じ練習をしても、同じ指示を出しても、女子と男子では取り組み方が違う。

女子には女子の指導の仕方があるはずだ。

そう気づいた佐々木監督は、まずは男女の違いをよく知ることから始めました。

女子の特性をよく理解し、その特性に応じた指導をすれば効果的だと考えたからです。

男性とは違う女性特有の心の動き方、人間関係の築き方、男女の脳の違いなどを本で読んだり専門家に尋ねたりして勉強しました。奥さんのアドバイスにも素直に耳を傾けました。

その指導法の大きな違いは、男子の場合は「上から目線」、女子の場合は「横から目線」だそうです。

そこで、女子に対しては、できるだけフラットな人間関係を心がけるようにしました。

それは選手たちが「監督」と言わず、「のりさん、のりさん」と呼ぶことからわかります。

「のりさん」は、自分のほうから心を開いて、選手たちの話を聞いてあげたり、彼女たちが不安に思っていることに相談に乗ったりできるようにしました。練習も上から押し付けるようなことをせずに、ミーティングで話し合い、選手が納得できるようにしています。

それで彼女たちも、やる気を出して、チームワークも良くなり、だんだんと成果を出していったということなのです。

これはスポーツの指導に限りません。

小学生(それ以上)の学習指導でも同じことです。

子育ても勉強も男女の特性に応じたほうが効果的



これは、本郷の北原先生と品川女子学院の漆先生の素晴らしいご本ですが、大きな書店の子育てコーナーに行くと、必ず「男の子の育て方」「女の子の育て方の本」と分かれています。

漆先生のご本を例外として、お母さんに人気のあるのは、圧倒的に男の子の育て方の本です。同じ著者の本なら、男の子本は、2倍くらい多く売れます。

というのは、ほとんどの購読者のお母さんにとって、男の子は自分と違う発想をしたり、行動をしたりして、よくわからない宇宙人みたいな存在なので悩みも多いわけです。

つまり子育ても、それに続く勉強も、男の子と女の子で違うということは、ふつう親もわが子を見て、感ずいていらっしやるということなのです。

指導上、考慮したい男女の特性(傾向) 1

- **成長** ペースが男女で違う。
- **態度** **男子**は落ち着かないが・・・
女子は真面目な学習態度だが・・・。

ADHD(注意欠陥多動性障害)の
男子は、**女子**の3倍～6倍。

では、どのように違うか・・・

指導上、考慮したい男女の特性(傾向) をあげていきます。

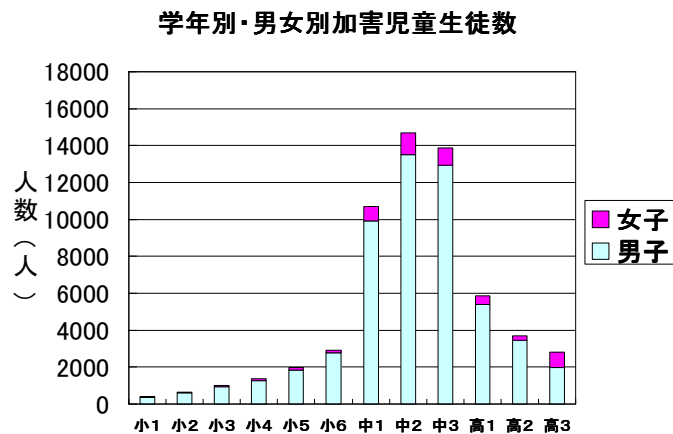
もちろん、子ども一人一人違いますから、全員に当てはまるわけではありません。
が、だいたい目につく傾向です。

成長 ペースが男女で違う。女子のほうが成長が早いです。

態度 男子は落ち着かないが、好きなことには夢中になります。
女子は真面目な学習態度ですが、
何かにつまずいて自信をなくすとあきらめてしまいがちです。

ちなみに、ADHD(注意欠陥多動性障害)の
男子は、女子の3倍～6倍です。

指導上、考慮したい男女の特性(傾向) 2



文部科学省「平成24年度『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』2013年12月10日」

物を壊したり、暴力的な問題行動を起こすのは、男子が圧倒的に多いです。特に中学生。

このグラフを女子校で見せて、「だから女子校は安全な環境なんですよ」と、いうと女子校の先生方や保護者は喜ばれます。

でも、男子校は・・・？

実は、男子校も安全です。というのは、これはほとんど共学校のデータでしょう。

男子校では男子にあった生活指導をします。女子に指導するように、あまり細かいことは言わない。まあ、まあ、だいたいOKで、自主性を尊重します。だから、ストレスがたまらない。たまったも、クラスみんなでスポーツをしたり、身体を動かしたりすればストレスが発散します。

つまり男子と女子では、生活指導の仕方が違ってきます。

指導上、考慮したい男女の特性(傾向) 3

・能力

言語能力は女子が高く、空間認知力は男子が高い。

・学力

PISA調査では、読解力は女子が高く、数学的Rは男子が高い。

能力

言語能力は女子が高く、空間認知力は男子が高いです。

学力

PISA調査では、読解力は女子が高く、数学的Rは男子が高いです。

PISA調査における得点の男女差

		2000年	2003年	2006年
読解力	OECD平均	▲32点	▲34点	▲38点
	日本	▲30点	▲22点	▲31点
数学的R	OECD平均	11点	11点	11点
	日本	8点	8点	20点
科学的R	OECD平均	0点	6点	2点
	日本	▲7点	4点	3点

- ▲は女子が高い
- 読解力は女子が高く、数学的Rは男子が高い。

『生きるための知識と技能 OECD生徒の学習到達度調査(PISA)』より

これは、3年ごとにおこなっているPISA調査の結果です。
 読解力は女子が高く、数学的Rは男子が高いというのは、
 世界的な性差だということがお分かりいただけだと思います。

PISA調査における得点の男女差

		2009年	2012年	2015年
読解力	OECD平均	▲39点	▲38点	
	日本	▲39点	▲24点	
数学的R	OECD平均	12点	11点	
	日本	9点	18点	
科学的R	OECD平均	0点	1点	
	日本	▲12点	11点	

- ▲は女子が高い
- 読解力は女子が高く、数学的Rは男子が高い。

『生きるための知識と技能 OECD生徒の学習到達度調査(PISA)』より

これもそうです。

ちなみに科学的能力は女子が弱いというのは、あてはまらないようです。

指導上、考慮したい男女の特性(傾向) 4

- **好きな教科**(男女差の大きい教科順)

小学生

男子は、「算数」「理科」「体育」

女子は、「音楽」「国語」「家庭」

中学生

男子は、「理科」「数学」「体育」

女子は、「音楽」「美術」「国語」

ベネッセ教育研究開発センター「第4回 学習基本調査」[2006年実施]

これは、小学生と中学生の好きな教科で男女差の大きい教科順に並べたものです。

小学生も中学生も

男子は、理数系・体育系の教科。

女子は、文系・技術系の教科が好き
だという結果がでています。

指導上、考慮したい男女の特性(傾向) 5

- 小学生の夢

- 男子の夢

- 1位 サッカー選手 2位 野球選手

- 3位 ゲームデザイナー

- 女子の夢

- 1位 パティシエ・ケーキ屋さん 2位 お花屋さん

- 3位 幼稚園の先生・保育士

学研教育総合研究所2010年9月調べ

小学生の将来就きたい職業は、男女で全然違います。

男子は、スポーツ・ゲームに関する職業

女子は、きれいなもの、可愛いもの、おいしいものなどに関する職業が良いようです。

私が驚いたのは、女子 第1位のパティシエ・ケーキ屋さんです。

これは小1から小6まで全学年でダントツトップでした。

指導上、考慮したい男女の特性(傾向) 6

- 願望

男子はヒーロー願望→成功

強くて、カッコいい、ヒーローに憧れる。

女子はプリンセス願望→幸せ

可愛くて、きれいで、お姫さまみたいになりたい。

願望として、

男子はヒーロー願望があります。成功して認められたい。

強くて、カッコいい、ヒーローに憧れています。

女子はプリンセス願望があります。

幸せになりたい。

可愛くて、きれいで、お姫さまみたいになりたいと思っている子、

女性が多いようです。

指導上、考慮したい男女の特性(傾向) 7

• 学習意欲

男子は面白くない・メンドクサイとしないが、
一旦、面白くなると、夢中でやりだす。

女子は面白くなくてもとりあえずやる(子が多い)。

女子はわからない問題に不安になるが、

男子は燃える(子が多い)。

女子は先生や親からの評価(一言)を

男子よりも気にする(子が多い)。

学習意欲について

女子は面白くなくても、叱られるからとかやらないと恥ずかしいからなどの理由で、とりあえずやる子が多いです。

男子は面白くない・メンドクサイとしません。

でも、一旦、面白くなると、夢中でやりだします。

わからない問題に出会うと女子は不安になって先に進めなくなる、男子は逆に俺が解いてやると燃える子が多いです。

女子は先生や親からの評価(一言)を男子よりも気にする子が多いです。男子は何度叱られても、わかっていない子がいます。

指導上、考慮したい男女の特性(傾向) 8

- 男子は競争、女子は協力を好む
- 男子はゲーム感覚、女子はドリル方式で
- 男子はおおざっぱなヒント、女子は細かい指示を

男子は競争をしたがります。

どっちが強いのか、誰が勝つか、一番かにこだわります。

女子は競争をしても、人間関係が壊れるようなことを好みません。むしろ、みんなで話し合っただけで協力して問題を解決しようとする傾向があります。

男子はゲーム感覚・遊び感覚の勉強が好きです。

女子はドリル方式でコツコツするのが向いているようです。

男子は細かすぎる指示だと意欲をなくします。女子はおおざっぱなヒントだと不安になります。

なので、男子はおおざっぱなヒント、女子は細かい指示を説明は、女子の場合、最後までしたほうがいいです。

指導上、考慮したい男女の特性(傾向) 9

- 男子は挑戦意欲、女子は安心感を
- 男子は上から、女子は横からの働きかけ
- 男子は瞬発力、女子は持続力

男子は「君にできるかな？」と挑戦意欲を刺激します。

女子は「きっとできるよ」と安心感をもたせたほうがやる気がでます。

男子は、尊敬する先生や先輩から「やれ」と言われて「はい」とやる気になれます。

女子は、それは抵抗があるようです。佐々木監督のように「横から目線で」接してもらえたほうが、やる気がでるようです。

男子は、短期間に急に伸びることがあります。

女子の強みは、コツコツと真面目に努力を継続しながら長期的に少しずつ伸びていく子が多いです。

男女別の育て方・教え方のヒント1

女子の算数(数学)

1. スモールステップで着実にレベルアップ

その背景

真面目でガンバリ屋な子もちょっとしたことで不安感もちやすい。

難しい問題には意欲をなくし、分からなければ思考がストップする。

先生や親からの小まめな評価(一言)がやる気アップにつながる。

以下、男女別の育て方のヒントとして、女子の算数(数学)と男子の国語に焦点をしばってお伝えします。

これらは、第2回のシンポジウムやいくつかの学校を取材して教えていただいたこと、私自身の経験をふまえて、私なりにまとめたものです。

必ずしもこれが正解というわけではなく、あくまでも参考例です。
もしお役に立つようであればご活用ください。

そして、時間もあまりないので、書いてあることを読み上げるだけとなります。

男女別の育て方・教え方のヒント2

女子の算数(数学)

2.抽象的なことを具体的なことに置き換える。

その背景

理屈や理論だけでは、ついていけない子が多い。

実際に手で触れるもの、生活に根ざしたものを使うとより理解しやすい。

男女別の育て方・教え方のヒント3

女子の算数(数学)

3. 手作業しながら思考する。

その背景

特に図形問題を苦手とする子が多い。
自分の手で触わるとイメージしやすい。
定規やコンパスなしで図形をかき練習も有効。
話し合い、教え合う学習も有効。

男女別の育て方・教え方のヒント4

女子の算数(数学)

4. 「だいじょうぶ。できる」と励まし続ける。

その背景

女子だから算数・数学ができないという思い込みが親子にある。

しかし、女子に合った教え方なら、もっと伸びる。

特に女子は、自己肯定感をもてることが大切。

男女別の育て方・教え方のヒント5

男子の国語

1. 「面白い」と思わせる。

その背景

単調な作業もゲーム化すると夢中でやる。

文章をもとに討論すると燃える。

「寄り道をする」→好奇心をもって探求していく

灘中学高校の伝説の国語教師 橋本武先生

男女別の育て方・教え方のヒント6

男子の国語

2. 本好きにする。

その背景

男子が好む絵本・本を与える

(ヒーロー、かいじゅう、昆虫、乗り物などが出てくる本
スポーツ選手、戦国武将もの、冒険もの、図鑑もいい)

男女別の育て方・教え方のヒント7

男子の国語

3. 幅広く国語力を磨く。

その背景

名文暗唱・百人一首→日本語の身体化。

劇→コミュニケーション能力を伸ばす。

卒論発表会(自由研究)→好奇心・探究心を育てる。

男女別の育て方・教え方のヒント 8

男子の国語

4. 「あとで伸びる!」と信じ続ける。

その背景

男子と女子の成長ペースは違う。

劣等感をもって、やる気を失わないように。

「ダメな子」だと思わない、思わせない。

別学校では男女の特性に応じて
生活指導・学習指導ができる。



子どもはぐんぐん伸びていく。



このように、男女別学校では男女の特性に応じて
生活指導や学習指導ができるのが最大の強みです。

すると、子どもは楽しく、安心して学校生活を送れ、
自分の可能性や能力を伸ばしていくことができます。

男女別学教育の良さを広めよう。



さて、最後です。

皆様をお願いしたいのは、繰り返しますが、
男女別学校の良さを見つけていただきたいということです。

そして、できれば、それをご自分のお子さんやまわりの方々に
何らかの形で伝えていただければと思います。

日本には本当に良い男女別学校がたくさんあります。

その良さが広まれば、日本の子どもたちは、
もっと自分に自信をもち、もっと幸せになれると私は思いますし、
そう願っています。